

第53回日米財界人会議開会式 岸田外務大臣来賓挨拶

1 はじめに

ただいま御紹介いただきました外務大臣の岸田文雄です。第53回日米財界人会議の開会式に当たり、一言、御挨拶申し上げます。

日米財界人会議は、今回で第53回目を数え、実に半世紀以上にわたり、日米の二国間経済関係の強化に対して継続的に多大な貢献をされ、外務省としても極めて重視している民間対話の一つです。

このような重要な役割を果たす会議の開会をお祝い申し上げるとともに、日米財界の皆様を前に御挨拶する機会をいただいたことに、厚く御礼申し上げます。

2 日米同盟は日本外交の柱

私は日頃から「日本外交の3本柱」として、「日米同盟の強化」を第1の柱に掲げています。日本外交の基軸である日米同盟は、かつてないほど盤石であり、日米は基本的価値を共有するパートナーとして、経済、安全保障、グローバルな課題への対応等、あらゆる側面で緊密な関係を構築しています。さらに、日米同盟を基軸とする同盟ネットワークを構築していくことで一致しています。

3 民間部門の相互協力関係と裾野の拡大

さて、強固な日米関係の礎として大きな役割を果たしているのが、この場に御参集の日米双方の民間の皆様です。

日系企業による米国経済への貢献は、既に多くの方が肌で感じられているところだと思いますが、米国各地に進出し、直接投資、雇用創出に多大な貢献を行っています。日系企業が創出している雇用は、全米で90万人を超えるとも言われており、例えば、この会議に先立ち9月に行われた日米中西部会の参加9州では約20万人、日米南東部会の参加7州では約15万人もの雇用を創出しているとの試算もあります。日系企業は、それぞれの地域で経済のエンジンとなるだけでなく、そのモラルの高さ等、雇用の「質」の面からも、コミュニティの発展や地域経済の成長に大きく寄与しています。

同様に、米国企業による日本国内での活躍も、金融、保険、航空、デジタルエコノミーを始めとした様々な分野において、国民生活に大変深く根付いております。

さらに、現在の日米の経済関係は、インフラ、エネルギー、サイバー、環境、公衆衛生といったグローバルな課題等を含む、多様な分野に協力の裾野が拡大しています。例えば、インフラ分野においては、先進国である米国においても、老朽化したインフラの維持・更新を含め、新たな投資案件が一層増加してくるものと思われれます。我が国としては、日本の誇る技術の結晶であるマグレブや新幹線と言った高速鉄道での協力はもとより、水、クリーンエネルギー等、幅広い分野において、米国の皆様のよりよい生活の実現のために、日系企業が協力できる大

きな可能性が秘められていると考えております。今後、こうした新たな分野での相互協力が、益々進展することを期待しております。

日米協力は人材交流の分野でも発展しています。東日本大震災後の復興支援として発足した、「TOMODACHIイニシアチブ」では、本日御列席の企業の方々や、御臨席のケネディ大使を始め、多くの方々の御協力のもと、次世代リーダーを育成する各種プログラムを実施しています。本イニシアチブへの支援は、延べ4,500万ドル以上、参加者は延べ3万5,000名以上に及び、日本政府としては運営主体である米日カウンスルとともにパートナーシップを立ち上げる等、力を惜しまず協力を進めていきます。このように、日米の経済関係は、かつての摩擦の時代を乗り越え、双方向・協調の時代を謳歌しています。

4 TPPの早期発効に向けて

さらなる日米関係の発展に向け、政府としては、今後も具体的な取組を通じて一層努力していきます。このような観点から、両国にとって特に重要なのが環太平洋パートナーシップ（TPP）協定です。

TPPは、日米両国が主導して基本的価値を共有する国の中で、開放的で公平な21世紀型のルールをアジア太平洋地域に広める試みです。また、日米同盟を経済面でも一層強化し、アジア太平洋地域や世界の平和と安定に貢献するという大きな戦略的意義を有しています。TPPの世界最高水準のルールは、日米両国においても、流通構造の変革、雇用増加等を通じ、消費者や労働者に新たなチャンスを与えることが期待されています。

5 終わりに（今後の取組）

米国の大統領選挙は、いよいよ来週投開票が行われます。誰が新しい大統領になるにせよ、これまでの日米関係を更に強固にするべく、新政権との協力に取り組むことに変わりありません。

その取組の一つとして、外務省では、「日米経済研究会2016」を主催し、各界の有識者の方に御協力いただき、今後の日米経済関係のあり方、さらには日米関係全般を強固にしていく方途について、忌憚のない議論を行っていただいている最中です。来週にも提言が纏まる予定となっておりますが、その提言も踏まえつつ、新たな時代における日米関係を更に深化させる取組を着実に実行して参りたいと考えております。

今次日米財界人会議では、多岐にわたる分野について、これより議論されると承知しております。濃密な議論が行われ、今次会合が日米両国の更なる相互理解の促進に寄与することを祈念し、私の開会の挨拶とさせていただきます。

御静聴ありがとうございました。

（了）